

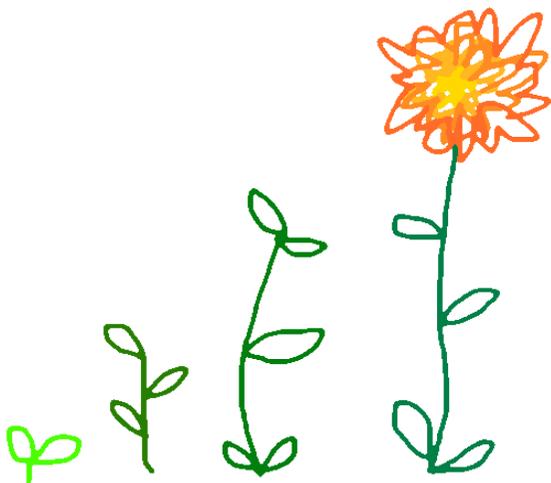
いまだから読みたい

「災害・復興・防災」の本

2011.3.11 東日本大震災 発生。

私たちはこれから、どのように自然と向き合い生きていくべきなのか。

過去の様々な記録や物語に触れ、いま、考えてみませんか。



目次

災害の記録 -----	3
私たちは過去にどのような災害を経験したのか、網羅的に知る。	
震災の記録、そして復興へ -----	4
日本人が経験した、大きな2つの震災について振り返る。	
原子力事故の記録 -----	8
原子力事故、何かどうなるのか	
今出来る防災とは -----	13
災害予防として何が出来るだろうか	
3.11 東日本大震災を受けて -----	14



書を経験したのか、網羅的に知る。

私たちは今まで数え切れないほど多くの災害を経験し、今この時を生きている。

はるか昔、私たちの祖先が経験した災害。

自分が生まれた頃に起きた災害。

まだ記憶に新しい災害。

網羅的に眺めることで、人間と自然環境が歩んできた一つの歴史を改めて知る。

タイトル、著者	出版年	配架場所	請求記号
日本災害史事典：1868-2009 / 日外アソシエーツ編集部編	2010.9	大学図・2F 参考 館内閲覧のみ	369.3A/N71n
世界災害史事典：1945-2009 / 日外アソシエーツ編集部編	2009.10	大学図・2F 参考 館内閲覧のみ	209.7A/N71s
日本災害史 / 北原糸子編	2006.10	大学図・1F 開架	368.3/191
ドキュメント災害史 1703-2003： 地震・噴火・津波、そして復興	2003.6	大学図・書庫	368.3/144
平成災害史事典 / 日外アソシエーツ編集部編	最新：平成 16年-平成 20年	大学図・2F 参考 館内閲覧のみ	210.8/271A/1-3
昭和災害史事典 / 日外アソシエーツ編集部編	1993.7- 1995.11	大学図・2F 参考 館内閲覧のみ	210.8/271/1-6
災害の事典 / 萩原幸男	1992.11	大学図・2F 参考 館内閲覧のみ	368.3/73
災害 / 荒川秀俊, 宇佐美龍夫	1985.9	大学図・2F 参考 館内閲覧のみ	450.9/5
日本の天災・地変 / 東京府社会課編	1975.12・1 976.1	大学図・2F 参考 館内閲覧のみ	450.9/1/1・2

Zoom UP !

— 『日本災害史事典：1868-2009』（日外アソシエーツ編集部編. 2010.9）

日本で発生した災害（自然災害、人災）について発生年月日順に記した事典。

災害の内容や被害状況を表すデータが簡潔に掲載されています。

眺めてみるだけで、こんなにも多くの災害が日々起きていることに驚きます。

自分の生まれた年、生まれた日の記録を見ても勉強になるかもしれません。

震災の記録、そして復興へ

日本人が経験した、大きな2つの震災について振り返る。

「関東大震災(1923年)」と「阪神・淡路大震災(1995年)」。

当時の状況を克明に記した多くの資料は、今の私たちに何を語るのだろうか。

様々な思いを胸に生まれたこれらの記録を、改めて読み返す。

関東大震災(関東地震)とは

発生日時	1923年(大正12年)9月1日午前11時58分
概要	関東地方南部を襲った大震災。ちょうど昼食時であったため、地震による家屋の倒壊によって134か所から出火し、9月3日午後2時に鎮火した。その間、大火災のために気温が上昇、東京では1日夜半には46℃に達し、初震以来5日午前6時までには人体に感じた余震は936回を数え、各地に津波が襲来した。そのため日本の心臓部である京浜地帯は壊滅的な打撃を受け、被害は東京府を中心に神奈川、千葉、埼玉、茨城、静岡、山梨の1府6県に及んだ。
マグニチュード	7.9
最大震度	6
死者・行方不明	10万5千余名

阪神淡路大震災(兵庫県南部地震)とは

発生日時	1995年(平成7年)1月17日午前5時46分
概要	兵庫県を中心として阪神地方に甚大な被害を与えたマグニチュード7.3(2001年精査前はマグニチュード7.2)の巨大地震災害の一般的な呼称。淡路島北部から神戸方面に続く活断層のずれによって発生した。この地震による被害はきわめて甚大で、災害はとくに神戸市に集中し、中心部の長田(ながた)区では2日間延焼して、区全域が灰燼(かいじん)に帰した。木造家屋ばかりでなく耐震設計の鉄筋アパートやビルまで倒壊し、ライフラインの電気、ガス、水道、電話などが壊滅、道路、鉄道などの交通網の寸断、液化現象による人工島ポートアイランドの沈下、日本最大のコンテナバース(岸壁)の崩壊など、都市機能と経済基盤が破壊された。
マグニチュード	7.3
最大震度	7
死者	6434名

参照：

・気象庁。“過去の地震・津波被害”。<http://www.seisvol.kishou.go.jp/eq/higai/higai-1995.html>, (参照 2011-05-23).

・日本大百科全書(ニッポニカ), ジャパンナレッジ (オンラインデータベース), 入手先<<http://www.jkn21.com>>, (参照 2011-05-23).

関東大震災

震災記録			
タイトル、著者	出版年	配架場所	請求記号
天災日記：鹿島竜蔵と関東大震災 / 武村雅之編	2008.8	大学図・1F 開架	368.3/202
横浜の関東大震災 / 今井清一	2007.9	大学図・1F 開架	212.9/208
関東大震災 / 和田博文編	2007.6	大学図・1F 開架	212.6/353 ア/26
手記で読む関東大震災 / 武村雅之	2005.11	大学図・1F 開架	368.3/174/5
正午二分前：外国人記者の見た関東大震災 / ノエル・F・ブッシュ著；向後英一訳	2005.8	大学図・1F 開架	210.78/18a
関東大震災：消防・医療・ボランティアから検証する / 鈴木淳 ？復興？	2004.12	大学図・1F 開架	210.78/50
関東大震災 / 吉村昭著	2004.8	大学図・1F 開架	Bunshun/よ 1/41
世界史としての関東大震災：アジア・国家・民衆 / 関東大震災 80 周年記念行事実行委員会編	2004.9	大学図・1F 開架	210.78/48
図説関東大震災 / 太平洋戦争研究会編	2003.9	大学図・1F 開架	210.78/45
関東大震災：大東京圏の揺れを知る / 武村雅之	2003.5	大学図・1F 開架	454/73
絵はがきが語る関東大震災：石井敏夫コレクション / 木村松夫, 石井敏夫編	1990.8	大学図・書庫	210.78/28
復興記録			
タイトル、著者	出版年	配架場所	請求記号
震災復興期の東京 / 東京都編	2008.3	大学図・書庫	212.6/221/7(1) 212.6/221/7(2)



当時の新聞記事からも様々な状況をうかがい知ることが出来ます

朝日新聞

- ・帝都を中心として関東の天変地異 地震から海嘯火災列車の惨事 大混乱言語に絶す 【大阪】. 朝日新聞・朝刊. 1923年9月2日. 1頁.
- ・阿鼻叫喚の帝都を縦横に馳駆して廻った 本社吉田特派員の視察記 【大阪】. 朝日新聞・朝刊. 1923年9月3日. 2頁 1段.

毎日新聞

- ・関東大震災起こる. 東京日日新聞・東京号外. 1923.09.01. 1頁 1段目.

読売新聞

- ・大演習を取り止めて海軍の救護 貯蔵糧食全部を提供 / 関東大震災. 読売新聞・朝刊. 1923.09.12.

阪神・淡路大震災



震災記録			
タイトル、著者	出版年	配架場所	請求記号
阪神・淡路大震災関連文献目録：1995-2000 / 日外アソシエーツ株式会社編	2000.10	大学図・2F 参考館内閲覧のみ	368.3/128/ 1995-2000
阪神大震災とマスコミ報道の功罪：記者たちの見た大震災 / 小城英子	1997.6	大学図・1F 開架	368.3/106
地震と社会：「阪神大震災」記 / 外岡秀俊	1997.12・1998.7	大学図・1F 開架	368.3/109/1 368.3/109/2
激震：そのとき大学人は：阪神・淡路大震災関西学院報告書 / 阪神・淡路大震災関西学院報告書編集委員会編集	1996.2	大学図・書庫	374.2/550
阪神・淡路大震災対策等の記録 / 郵政大臣官房企画課防災企画室編	1996.1	大学図・書庫	368.3/96
阪神・淡路大震災の記録 / 消防庁編集	1996.1	大学図・書庫	454/53/1-4
阪神・淡路大震災と家族：面接調査による事例研究報告書 / 兵庫県家庭問題研究所調査研究	1995.4	大学図・書庫	367/196
1995年1月・神戸：「阪神大震災」下の精神科医たち / 中井久夫編	1995.3	大学図・書庫	499/246
阪神大震災：報道写真全記録 / 朝日新聞社編	1995.3	大学図・書庫	454/44
阪神大震災の被災者にラジオ放送は何ができたか：「被災していない人への情報はいらない！」と言いつづけた報道者たち / 毎日放送	1995.6	大学図・1F 開架	368.3/90
神戸発阪神大震災以後 / 酒井道雄編？復興	1995.6	大学図・1F 開架	081.2/2C/397
阪神大震災にともなう「トイレに関する支援のための調査」報告書 / 日本トイレ協会, 神戸国際トイレトピアの会企画・編	1995	大学図・1F 開架	318.9/206



「かどうなるのか。」

復興記録			
タイトル、著者	出版年	配架場所	請求記号
伝える：阪神・淡路大震災の教訓 / 兵庫県編	2009.3	大学図・1F 開架	369.3A/H99t
大地からの警告：大震災は何を語りかけたのか / 貝原俊民	2005.1	大学図・1F 開架	368.3/156
大震災 10 年と災害列島 / 塩崎賢明 [ほか] 編	2005.1	大学図・1F 開架	368.3/158
阪神・淡路大震災 10 年：新しい市民社会のために / 柳田邦男	2004.12	大学図・1F 開架	081.2/2C/923
ドキュメント崩壊からの出発：阪神大震災 5 年・「生活再建」への挑戦 / 渡辺実, 小田桐誠共	2000.9	大学図・1F 開架	368.3/124
被災者復興支援会議の活動記録：阪神・淡路大震災とくらし再建 / 被災者復興支援会議	1999.3	大学図・書庫	368.3/115
阪神・淡路大震災後の被災者の心理的回復プロセス	1999.3	大学図・書庫	368.3/116
くらし再建道筋ここから：阪神・淡路大震災から 2 年... / 市民と NGO の「防災」国際フォーラム実行委員会編	1997.9	大学図・書庫	368.3/100/2
阪神・淡路大震災の教訓 / 石橋克彦	1997.1	大学図・1F 開架	081.2/59/420
黒い虹：阪神大震災遺児たちの一年 / あしなが育英会編	1996.1	大学図・1F 開架	914.8/207
鉄道復旧記録誌：阪神・淡路大震災 / 西日本旅客鉄道株式会社監修；交通新聞社 [編]	1996.1	大学図・東地庫	688/92/1

★Zoom UP!

—『阪神・淡路大震災関連文献目録：1995-2000』（日外アソシエーツ株式会社編. 2000.10）
震災発生時から 2000 年 7 月までの間に国内で発行された阪神・淡路大震災に関連する各種雑誌の
記事・論文 7 千点以上と、図書 1,700 点以上を発行年月日順に記した文献目録。
網羅的に調べたいとき、とても役立つはず。

「どこで事故が起きたとき、一体何が起ころのか。」
過去の記録を知ることで次の一歩を踏み出せるかもしれない。

全体			
タイトル、著者	出版年	配架場所	請求記号
原発のどこが危険か：世界の事故と福島原発 / 桜井淳	2011.4	大学図・1F 開架	543A/Sa47g
原発と地震：柏崎刈羽「震度 7」の警告 / 新潟日報社特別取材班	2009.1	大学図・1F 開架	543.5A/N72g
まるで原発などないかのように：地震列島、原発の真実 / 原発老朽化問題研究会	2008.9	大学図・1F 開架	542/71
核爆発災害：そのとき何がおこるのか / 高田純	2007.4	大学図・1F 開架	081.2/58/1895
現地ルポ核超大国を歩く：アメリカ、ロシア、旧ソ連 / 田城明	2003.4	大学図・1F 開架	533/127
検証東電原発トラブル隠し / 原子力資料情報室編	2002.12	大学図・1F 開架	081.2/59/582
原発事故はなぜくりかえすのか / 高木仁三郎	2000.12	大学図・1F 開架	081.2/2C/703
原子力発電で本当に私たちが知りたい 120 の基礎知識 / 広瀬隆, 藤田祐幸	2000.11	大学図・1F 開架	542/49
原発被曝：東海村とチェルノブイリの教訓 / 広河隆一	2001.4	大学図・1F 開架	533/107
原子炉の暴走：SL-1 からチェルノブイリまで / 石川迪夫	1996.4	大学図・書庫	542/40

Zoom UP!

—『まるで原発などないかのように：地震列島、原発の真実』（原発老朽化問題研究会. 2008.9）
原発は本当に安全なのか。
材料劣化の危険性、地震との関連性など、様々な視点から検証した一冊。

東海村臨界事故とは

発生日時	1999年（平成11年）9月30日午前10時37分
概要	茨城県東海村の核燃料加工施設（JCO、旧日本核燃料コンバージョン）で発生した重大な臨界事故。3人の作業者がそれぞれ18.4、10.4、2.53シーベルトの大量被曝を受けた。事故は、高速増殖炉開発のための実験炉である「常陽」の18.8%高濃縮ウラン溶液を取り扱う作業中に発生した。効率を上げるためマニュアルに反して沈殿槽に限度を超えたウラン溶液を注入した結果、臨界超過状態が発生し、いわば「裸の原子炉」が出現してしまったのである。事故の5時間後に半径350メートル以内の住民に対する避難勧告が出されたが、その間の被曝は公衆に対する年間線量限度（1ミリシーベルト）を超えていた。施設周辺の土からはヨウ素131などの放射性核分裂生成物が検出されたが、幸い汚染は深刻なレベルではなかった。しかし、風評被害を含めて、茨城県産の農作物は深刻な打撃を受けた。さらに99年12月、2000年4月には懸命の治療にもかかわらず大きな被曝を受けた作業員2人が相次いで死亡、原子力発電の安全性に対する社会的な信頼を大きく揺るがすこととなった。国内の原子力事故で死者が出たのは国内でこれが初めて。
国際評価尺度	レベル4
死傷者	死者2名、負傷者1名

参照：・日外アソシエーツ編集部編、「東海村臨界事故」日本災害史事典：1868-2009. 日外アソシエーツ, 2010.9, p.425.
 ・日本大百科全書(ニッポニカ), ジャパンナレッジ (オンラインデータベース), 入手先 <<http://www.jkn21.com>>, (参照 2011-05-23).

東海臨海事故			
タイトル、著者	出版年	配架場所	請求記号
朽ちていった命：被曝治療83日間の記録 / NHK「東海村臨界事故」取材班	2006.10	大学図・1F 開架	Shincho/え 16/1
青い光の警告：原子力は変わったか / JCO 臨界事故総合評価会議	2005.9	大学図・1F 開架	533/137
JCO 事故後の原子力世論 / 岡本浩一, 宮本聡介編	2004.4	大学図・1F 開架	533/132
眠らない街：検証・東海村臨界事故 / 相沢一正, 丹野清秋編著；村上千鶴子〔ほか〕	2000.6	大学図・1F 開架	533/101
青い閃光：ドキュメント東海臨界事故 / 読売新聞社編集局	2000.4	大学図・1F 開架	533/98
ドキュメント・東海村：火災爆発と臨界事故に遭遇した原子力材の試練 / 國分郁男, 吉川秀夫編	1999.12	大学図・書庫	533/95

チェルノブイリ原子力発電所事故とは

発生日時	1986年（昭和 年）4月26日未明
概要	ソ連邦ウクライナ共和国の首都キエフ市の北方130キロメートルに位置するチェルノブイリ原子力発電所4号機で起こった、典型的な「反応度附加事故」すなわち原子炉暴走事故。水蒸気爆発、水素爆発あるいは化学爆発が起こった。爆発のため重量1600トンもあるコンクリートの上部生体遮蔽（しゃへい）盤が垂直に立ち上がり、それとともに圧力管と蒸気水分離器への鋼管との接合部が一斉に破断した。原子炉建屋上部は崩壊し、クレーンが落下して炉心を破壊した。過剰反応度の加わった核燃料は、ばらばらになって飛び散り、タービン建屋、炉心上部など30か所で火災が発生した。 チェルノブイリ事故の最大の特徴は、事故後に起こった炉心黒鉛の火災である。通常の条件では発火しがたい黒鉛がなぜ火災を起こしたかについては、現在でも原因不明である。しかし黒鉛は事故後も1986年5月1日ごろまで燃え続け、それとともに大量の放射性物質が上空1800メートルまで吹き上げられ、全ヨーロッパに広がった。一部は日本にまで到達し、フォール・アウト（放射性降下物）として観測された。
国際評価尺度	レベル7
死傷者	直接56人、間接（がんでのちに死亡）を入れて4千人といわれている

参照：・日外アソシエーツ編集部編、「チェルノブイリ原発事故」世界災害史事典：1945-2009. 日外アソシエーツ, 2009.10, p.194-195.
 ・日本大百科全書(ニッポニカ), ジャパンナレッジ (オンラインデータベース), 入手先 <<http://www.jkn21.com>>, (参照 2011-05-23).

チェルノブイリ原子力発電所事故			
タイトル、著者	出版年	配架場所	請求記号
チェルノブイリの森：事故後20年の自然誌 / メアリー・マイシオ著；中尾ゆかり訳	2007.2	大学図・1F 開架	466/68
チェルノブイリのいのちの記録 / 菅谷昭	2001.10	大学図・1F 開架	914.8/274
チェルノブイリから何を学んだか / 佐藤幸男, 和田あき子	1996.3	大学図・1F 開架	081.2/59/395
検証チェルノブイリ一刻一刻 / ピアズ・ポール・リード著；高橋健次訳	1994.8	大学図・書庫	533/56
チェルノブイリの子どもたち / 高橋卓志	1993.8	大学図・1F 開架	081.2/59/308
チェルノブイリ：アメリカ人医師の体験 / R. P. ゲイル, T. ハウザー著；吉本晋一郎訳	1988.12	大学図・1F 開架	081.2/2C/50 081.2/2C/51
地球被曝：チェルノブイリ事故と日本 / 朝日新聞社原発問題取材班	1987.4	大学図・書庫	542/11
チェルノブイリの放射能 / 赤木昭夫	1986.11	大学図・1F 開架	081.2/59/74
チェルノブイリ原発事故	1986.12	大学図・書庫	542/12

スリーマイル島原子力発電所事故とは

発生日時	1979年（昭和54年）3月28日午前4時頃
概要	アメリカ・ペンシルバニア州にあるスリーマイル島原子力発電所で、人為的ミスと装置の不備が重なって発生した事故。2次冷却水の給水ポンプの故障で1次冷却水の放出が止まらなくなり、炉内の温度が急上昇、緊急炉心冷却装置が作動したものの、作業員の判断ミスにより手動で止めてしまったため燃料棒が破損、核燃料が溶け出して冷却水を汚染した。この冷却水が補助建屋に流れ込み、放射性物質が放出された。30日早朝には新たな放射能漏れがあったため非常事態宣言が出され、周辺8km以内の住民のうち妊婦と未就学児が一時避難し、16km以内の住民の外出自粛が勧告された。
国際評価尺度	レベル5
死傷者	従業員4人が最大許容量を超える線量を浴び被曝

参照：・日外アソシエーツ編集部編、「スリーマイル島原発事故」世界災害史事典：1945-2009。日外アソシエーツ，2009.10，p.152。
・現代用語の基礎知識，ジャパンナレッジ（オンラインデータベース），入手先<http://www.jkn21.com>，（参照 2011-06-02）

スリーマイル島原子力発電所事故			
タイトル、著者	出版年	配架場所	請求記号
スリーマイル島への旅：原発、アメリカの選択・日本の明日 / 伊良子序	1989.4	法経図・書庫	533/138
Three Mile Island : a selectively annotated bibliography / compiled by M. Sandra Wood and Suzanne M. Shultz	1988	大学図・2F 参考館内閲覧のみ	016.3337/W85/c1
スリーマイル・パニック：核時代最悪のシナリオ / マーク・ステューブズ著；淵脇耕一訳	1981.9	法経図・書庫	533/23
スリーマイル島原発事故の衝撃：1979年3月28日そして... / 高木仁三郎編	1980.1	法経図・開架	543/Ta29/K
米国スリーマイル島原子力発電所事故後におけるわが国原子力意識の調査 / 日本原子力文化振興財団編	1980.5	法経図・書庫	533/239
原発の安全上欠陥 付：スリーマイル島事故の考察 / 原子力技術研究会編	1979.7	大学図・書庫	542/7
米国スリー・マイル・アイランド原発事故の我が国への影響と今後の対策 / 田中靖政，藤竹暁 [ほか]	1979	法経図・書庫	533/40/1-2

今できる「防災」とは

災害予防として何が出来るだろうか。

今のうちにできる防災・危機管理として、どんなことがあるだろうか。

様々な情報を参考に、手を伸ばせることから始めよう。

タイトル、著者	出版年	配架場所	請求記号
防災白書 / 総理府編	2010	大学図・2F 参考館内閲覧のみ	368.3/1/P
津波災害：減災社会を築く / 河田恵昭	2010.12	大学図・1F 開架	081.2/2C/1286
災害対策マニュアル：災害からあなたを守る本：If? How? / 日本弁護士連合会災害復興支援委員会編	2010.9	大学図・1F 開架	369.3A/N71s
目からウロコの防災新常識：あなたと家族の命を守る / 山村武彦	2010.2	大学図・1F 開架	369.3A/Y32m
身近なもので生き延びろ：知恵と工夫で大災害に勝つ / 西村淳	2008.9	大学図・1F 開架	Shincho/I17/4
そこそこ防災マン奮闘記：地震被害は減らせる！：ベストはダメでもベターはできる！ / 伊東義高	2006.7	大学図・1F 開架	368.1/167
無防備な日本人 / 広瀬弘忠	2006.2	大学図・1F 開架	368.3/182
危機管理 99 / 石川昭，辻本篤	2006.1	大学図・1F 開架	368.3/181a
災害情報が命を救う：現場で考えた防災 / 山崎登	2005.12	大学図・1F 開架	368.3/176
防災対策と危機管理 / 市町村アカデミー監修	2005.12	大学図・1F 開架	368.3/180
地震から生き延びることは愛：家族を守る「家づくり」「リフォーム」「防災術」 / 天野彰	2005.12	大学図・1F 開架	081.2/67/483
「図解」東京直下大震災：大惨事を生き抜く知恵と対策 / 中林一樹	2005.8	大学図・1F 開架	368.3/173
「震度7」を生き抜く：被災地医師が得た教訓 / 田村康二	2005.3	大学図・1F 開架	368.3/163
12歳からの被災者学：阪神・淡路大震災に学ぶ78の知恵 / メモリアル・コンファレンス・イン神戸編	2005.1	大学図・1F 開架	368.3/159
最新命を守る...防災事典 / 辞典編集部編集	2004.5	大学図・2F 参考館内閲覧のみ	368.3/151
非常事態のリーダーシップ：危機を乗り切る9つの教訓 / ジェームズ・L・ウィット，ジェームズ・モーガン著；森尚子訳	2003.10	大学図・1F 開架	368.1/135



今回の東日本大震災を受け、様々なメディアが特集を組んでいます。
そのうち学習院大学図書館に所蔵されている雑誌数点をピックアップし、
特集の一部をご紹介します。

- ・総力特集 国難・東日本大震災と闘う。 **文芸春秋**. 2011-06, vol. 89, no. 6, p. 94-223, 260-335.
- ・巻頭特集 3月11日以降の映画界。 **キネマ旬報**. 2011-05, No. 1582, 19-49.
- ・国難にどう答えるか 今こそ経済学。 **エコノミスト**. 2011-05-03, vol. 89, no. 21, p82-101.
→ **「毎案」 「Japan Knowledge」 で記事が読めます!** 
- ・特集 負けるな日本。 **週刊ダイヤモンド**. 2011-04-02, vol. 99, no. 14, p32-68.
→ **「D-VISION NET」 で記事が読めます!** 
- ・迷走する巨大企業の正体 東京電力。 **週刊東洋経済**. 2011-04-23, no. 6321, p32-55.
→ **「東洋経済デジタルコンテンツライブラリー」 で記事が読めます!** 
- ・東日本大震災への緊急提言。 **法律時報**. 2011-05, vo. 83, no. 5, p. 70-93.
- ・ワイド特集 「福島原発と日本」 100日後予測 (東日本大震災)。 **アエラ**. 2011-05-16, vol. 24, no. 23, p17-26.
- ・特集 震災2カ月のいま、考えるべきこと。 **中央公論**. 2011-06, vol. 126, no. 6, p. 21-74.
- ・Newton Special M9地震, 津波, 原発事故 未曾有の大震災。 **ニュートン**. 2011-06, vol. 31, no. 6, p8-117.
- ・緊急特集 福島第一原子力発電所 事故。 **現代化学**. 2011-05, no. 482, p. 18-39.

本学の理学部化学科教員、村松康行先生に注目!

(今回の福島原発事故で、解説やコメンテーターとしてNHKのニュース番組などに度々出演されています)

村松 康行 (むらまつ・やすゆき) 教授

専門: 無機分析化学、環境地球化学

経歴: 74年学習院大学大学院修士課程(化学専攻)修了。77年独ゲッチンゲン大学理学部地球化学専攻博士課程修了。77年同大学地球化学研究所研究員。78年放射線医学総合研究所入所、04年まで在籍。その間に国際原子力機関(IAEA)国際公務員および千葉大学客員教授にも就く。04年より現職。92年科学技術庁長官表彰。04年地球化学研究協会学術賞(三宅賞)受賞。09年度「ヨウ素学会賞」受賞。

参考:

- ・“Yasuyuki Muramatsu's Home Page in Japanese”. 2004-05-18. <http://www-cc.gakushuin.ac.jp/~19881147/HP-Muramatsu/ymJ.html>, (参照 2011-06-02).
- ・早稲田塾. “GOOD PROFESSOR (グッドプロフェッサー) 村松康行教授”. 2005-09-16. http://www.wasedajuku.com/wasemaga/good-professor/2005/09/post_152.html, (参照 2011-06-02).

村松先生著書の図書			
タイトル、著者	出版年	配架場所	請求記号
ヨウ素の濃縮と循環に関する生物地球化学的研究 / 研究代表者 村松康行	2008.6	大学図・書庫	G4/30 ア
放射線と地球環境: 生態系への影響を考える / 村松康行, 土居雅広, 吉田聡編	2003.9	大学図・1F 開架	461/299

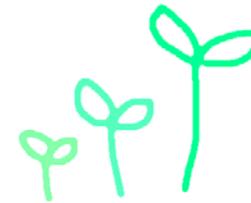
村松先生著書の論文			
タイトル、著者	出版年	配架場所	請求記号
ヨウ素から見えてくる地球・環境・生物 (特集 ヨウ素の科学と産業) 化学経済 53(3), 43-48	2006.3	法経図・書庫	505/12/P
ヨウ素の微量分析とその応用: 地球化学・環境化学分野を中心に ぶんせき (348), 709-715	2003.12	物化生図・書庫	—
「地球環境と放射線: 生態系への影響を考える」(放医研シンポジウム)を開催して 保健物理: hoken buturi 38(2), 97-99	2003.6	※オープンアクセス http://ci.nii.ac.jp/els/110003320188.pdf?id=ART0003784477&type=pdf&lang=jp&host=ci.nii&order_no=&ppv_type=0&lang_sw=&no=1306991853&cp=	

最後に---

今回の展示テーマはいかがでしたか。

過去の記録を振り返ることで、新しく見えてくるものがあったでしょうか。

これをきっかけに、復興、そして災害予防へと、一歩ずつ前進していけたらと思います。



いまだから読みたい「災害・復興・防災」の本
平成23年6月1日発行
担当：情報サービス課 内藤